

共通点	グループ	意見
・つながり ・協働 ・連携	1	地域のつながりがなくなっている。イベントを通してつながっていくことをこれからもやっていかないといけない。
		日常的なお付き合いを、どう地域に広げるかという課題。
	2	地域の中で障がいのある人とつながるきっかけとして防災訓練がある。障がいのある人に声をかけると参加してくれたので、地域に参加していける場所が、求められていると感じた。
		地域イベントを通じて顔見知りになることの大切さ。
	3	自治会とうまく協働できているところは、活動の規模も大きくなっている。もっと自治会と活動の協働をやっていききたい。
		隣の町と合同で防災訓練を実施しているところがある。その他にも、もっと広い範囲で一緒にできたらいいと思う。
		市民活動の団体や自主的に活動されている方は、地域ごとの活動ではないので、つながることが難しい。一方、団体同士の交流会を企画すると、たくさん集まるので、つながりたいという気持ちは持っているのではないかな。
		把握している活動団体だけの交流会ではなくて、もっと違う分野や他の方も入ったような交流会ができれば、つながりが広がり、もっと地域が活性化するのではないかな。
	4	困ったと言える関係づくりや仲間づくりが大事。
		助けたり助けてもらったりする関係づくりが重要。
		学校では体験学習等で関係機関と連携をもっと取りたいので、それをコーディネートしてくれるしくみや人がいると、うまくいくのではないかな。
		多文化共生の観点から、日々の生活の情報提供を行うことで、地域とつながりながら共生していけるのではないかな。
・出会いの場 ・交流	1	相乗りしたいと思っている人と相乗りしてほしいと思っている人が出会ったり、そこから、もう少し活動したいなと思っている人と、活動してほしいなという人が出会ったりするような、出会いの場、プラットフォームが、より活動を推進していくためには必要。
	2	日常の生活の中で、障がいのある方との接点が少ない。子どもたちは、公立小学校で、障がいのある子と同じ形で生活することが普通になってきているが、社会にでると、障がいのある方との接点が大幅に減る。
		日頃からイベント等で交流することで、相談の敷居が下がると、早めに関係性を築くことができるため、その方が望む生活を伴走的に支援していけるのではないかな。
		それぞれの人が生きがい、やりがいを引き出せる様々な居場所を考えていかないといけない。
	3	朝日ヶ丘コムスクでは、地区福祉委員会、自主防災会、PTAが参加し、地域のあらゆる団体が参画して活動を行っている。そうすることで、活動が大きくなるということと、PTAの方と知り合うことで、ゆくゆくは民生委員の担い手等今後のつながりができるのかなと思う。
・役割	4	多文化共生センターひょうごでの活動を通じて、外国の方と地域がつながることで、生活課題が見えてくると思う。日々の生活の習慣を一緒に作っていくような支援があるといいと思う。
	1	委員会や組織で団体の運営をされているが、ゲストとホストで完全に線が引かれている。ゲストはいいが、ホストは嫌、つまり、迎え入れるのは嫌だけど、あったら行くという感じなので、この線引きをどうなくすか、一体化するか。ゲストで来る人に、ホストとしての役割を担っていただくような仕掛けが必要なのではないかな。
	2	ひきこもりの方の支援において、仕事をした後、対価を支払うと、とても喜ばれる。社会に参加して自信が得られる場はとても大事。
	4	ひとり一役活動推進事業（ボランティアをしたい人とボランティアをしてもらいたい人をマッチングする事業）の周知により、お互いが助け合える仕組みが広がっていけばいいと思う。